

会報

第52号 (2019/12/5)

〒720-0082
広島県福山市木之庄町 4-3-14
Tel&Fax:084-917-5937
Mail:info@crcc-fukuyama.org



今後の予定



小物作り

12月17日(火) 13時半〜

・場所：スマイル仁伍（コシルネから徒歩1分）
・参加費：未定（800円程度）

・講師：桑田喜代美さん（神辺観光協会事務局）
・内容：今年も人気の千支の小物作りを行います。地域の絆の利用者さんと共に、ねずみ年の千支飾りを手作りしてみませんか。

講師は今年も桑田さんです。毎年ステキなオリジナル作品を考えてくださっています。難しい作業はありませんので、親子連れの方もご参加いただけます。手作りの小物で新年をお迎えください。

限定15個！
先着順！！



昨年の千支飾りは
卓上タイプでした

来年1月に新講座スタート

連続講座 オカリナが吹けるよ！

・講師：村山ひろみさん（福山市立大学 名誉教授）

・場所：ルネッサンス研究所 集会室

・日時：毎月第2・第4火曜日の13時〜14時半

（※1月は14日と28日です）

♪ 月に2回 1時間半のレッスン ♪

・参加費：運営費は毎月1000円。

楽譜代 320円（初回のみ）

①楽器持参の場合、C管アルトを。

②オカリナ購入の場合、3675円

新しく「オカリナが吹けるよ！」の講座がスタートします。一般の方を広く募集しています。皆で楽しくオカリナを吹いてみませんか？楽譜が読めない方、初心者の方、大歓迎です。お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ・申込先

NPO法人コミュニティルネッサンス研究所

電話・FAX：084-917-5937

メール：info@crcc-fukuyama.org

ワンコイン講座

1月17日(金) 14時〜

・場所：ルネッサンス研究所

・参加費：300円

・内容：次回から読む新しい本を何にするか考えています。

ワンコインで
オカリナが習えるよ！

もちつき

12月28日(土) 10時〜

・場所：仁伍グラウンド

・内容：当日は餅つきや出店などのイベントがあります。

※今回は日程の都合で当NPOは出店しない事になりました。代わりに、地域の絆のサ高住にておでん販売「ワサイクルバザー」を行います。

12月21日(土)10時頃より

・場所は、スマイル仁伍（屋内）にて。

「ケアの社会学」を読む会

12月12日(木) 16時半〜

・場所：ルネッサンス研究所

・参加費：300円

・読む本：上野千鶴子著「ケアの社会学」

・内容：第5章・5「家族介護」は福祉の含み資産か（P.116から）

今号の内容

- ・ 10周年記念講演を行いました
- ・ 今年の音楽祭りレポート
- ・ ちいきのいえ保育園のヤギ編集後記

※内容は以下に記載

活動報告

「助け合いながら地域でくらす」
事例報告と講演会

10月26日(土)午後1時半から、本会の10周年を記念して『10周年記念事例報告と講演会 助け合いながら地域でくらす』を市民参画センターで開催しました。主催はNPO法人コミュニティルネッサンス研究所、共催がNPO法人地域の絆で、福山市社会福祉協議会からは後援をいただきました。参加者、スタッフ、事例報告者・講師合わせて47名でした。なお講師の坂本誠さんは共催のNPO法人地域の絆の中島代表から紹介いただきました。

1. 事例報告

事例報告は、福山市内で助け合いの活動をされている次の方々に20分ずつお話いただきました。

- ① ボランティアセンターの活動について
門井千穂子さん、藤井恵子さん(御幸学区ボランティアセンター)
人を守る。自然を守る
- ② 桐島正充さん(農業法人はっとりほたるの里株式会社代表)
- ③ 山野に住み続けられるために
三木知文さん、田中房子さん(山野の暮らしを考える会)

御幸の門井さん・藤井さん



①の報告は、社会福祉協議会からモデル学区の依頼を受けて、ボランティアセンター設立のための準備をどのようにされたか、そして設立後はどのように活動をされているか、具体的な話がありました。

服部の桐島さん



②の報告は、地域としての取り組みではありませんでしたが、ご自分の失敗経験を含めた自己紹介から始まりました。相続した親の農地で農業を行ないながら、2年かけて考えられた、自分が農業を行う理念、命題、使命の話が中心でした。

③の報告者は過疎化に伴い毎日の暮らしに必要なインフラなどがだんだんと無くなっていく状況下にある地域課題から話をはじめました。その中

で、山野の抱える課題についての情報を共有するために「山野の暮らしを考える会」を設立し、その活動について報告されました。

山野の三木さん・田中さん



2. 講師からのコメント

講師の坂本誠さんは農村社会学がご専門で、元全国市町村会調査室長として中山間地域で行われているまち作りの調査・研究をしてこられた方です。現在はNPO法人ブランドデザインの理事および早稲田大学経済学部非常勤講師をされています。最近はまだ一度地域作りを学び直したいと考えられているそうです。

講演の最初に、上記3事例の報告は、こうした地域づくりの活動をする上で大切なことをそれぞれ話されていたとコメントされました。

- ① 試行錯誤しながら自分で考え、持続されていること。
- ② 理念や使命をじっくり考えられている。



坂本講師による
まとめの講演と質疑応答

- ③ みんなで地域のことを考え、できることから行動に移していること。
 - ④ コミュニケーションを大事にし、その中で助け合っている。
 - ⑤ 助けることで元気をもらっている
3. 講演 「助け合いながら地域で暮らすために」
現在取り組まれている「地域づくり」は何が問題か、という話からはじまりました。助け合いながら地域でくらすためには、「共生」の論理に基づく「自治」の結び直しが必要であること、具体的にはどのようなことをすればよいのかを提示されました。



坂本講師を囲んで
和やかに歓談しました。

4. 会を終えて
いずれの事例も、地域作りとはそれぞれの課題をどのように変えたいのかを自分たちの頭で考え歩み出すことが大切、と言うことを教えていただいた報告でした。参加者の中からは、実践している方の話は迫力があるね、という方も。盛りだくさんであったため、講師の持ち時間が短くなり、もっと聞きたかったという思いで帰られた方もあったかと思えます。
会終了後は講師を囲み、事例報告者や参加者の方々と質問や意見交換などをしました。
なお、この会の詳細については、別紙報告書をご覧ください。

11月2日(土)に毎年恒例の音楽祭が開かれました。穏やかに晴れ、風もほとんど無い絶好のお祭り日和でした。
まずは、地域の絆の利用者さんによる合唱からスタート。この日のために練習してきた歌謡曲や童謡などの曲を披露しました。最後には、利用者さんや職員さんが一緒に歌詞を作った青い山脈の替え歌、「地域福祉センター仁伍の唄(若い老人)」でしめくり、大きな拍手をいただきました。その後もハーモニカ演奏や三線の演奏、つくしこども園の園児さんによる歌と踊り、また城北中学の生徒さんの城北太鼓など、音に溢れた賑やかな舞台となりました。
NPOでは昨年に引き続き、フランクフルトの販売を行いました。仕入れた60本は完売！いつもヤギのお世話に来てくださっている、就労継続支援B型「ASHI」の利用者さんと指導員さんも遊びに来られ、フランクフルトを購入して下さいました。
また、子ども用のつりぼり、輪投げは園児さんに大人気。一時は人だかりが出来、「列に並んでね。」と声かけ。用意していた景品が無くなるほど盛況でした。
リサイクルバザーでは、今回このニュース読者の方から沢山の食器類や雑貨をご提供いただき、全て並べていたところ、かなりの品数が売れました。

音楽祭



そしてお昼までには品薄となり、早めの閉店となりました。

コーラス指導の村山さん、出店でお手伝いいただいた田中さんにはお世話になりました。また、リサイクル品をお譲りいただいたり、ホットプレートを貸して下さった会員さん、お祭りに遊びにお越し下さった方々と、多くの方からご支援いただきました。どうもありがとうございました。



広場に元気な声が響きました。また、観客の皆さんにも一緒に歌っていただけるよう歌詞を配るなど、工夫をしました。



「ASAHI」の皆さん。いつもヤギやウサギのお世話をしてくださっています。時々園児さんも遊びに来ます。



音楽祭の記事にも登場しましたが、ちいきのいえ保育園で飼育されているヤギとウサギのお世話は、いつもNPO法人の就労継続支援B型「ASAHI」さんをお願いしています。利用者さんと指導員さんの2、3名で小屋の掃除、エサになる草の調達、近所の空き地にヤギをつないで草取り、動物の健康状態の観察などもしていただいています。過去にヤギを飼育していた経験のある指導員さんもおられ、アドバイスいただきながら半年が経ちました。夏にはちよつとバテ気味だったウサギも息を吹き返したように活動的になりました。今日も地域のアイドルとして愛嬌をふりまっています。



いつも私たちのお世話をしてくれるのよ。メェ〜♪

編集後記



10周年イベントで、事例報告や講演会のお話を聞きました。そしてつながりを育む「コミュニティ」とは何だろうか？と考えたときに思い出したのが、子どもが幼かった頃に住んでいた社宅と、幼稚園のお母さん方です。

まだ赤ん坊の息子が泣き止まなかった時にスーパーに行くけど、いる物ある？」と声をかけてくれたお隣さんの存在はとても有り難かったです。また、別のお隣さんとはお味噌、切れちゃった。」と言って、よく醤油や味噌などの貸し借りをして助け合っていました。(コンビニも近い今のマンション生活では考えられません。)

また、真夏の炎天下で子どもたちのスポーツの試合が毎週のように屋外で続いた時、下の子を預かってくれた友人には今でも感謝しています。事例のお話しに比べると、とても小さな小さなコミュニティですが…。

隣人とのコミュニケーションや、お互いに「助けて」と言える付き合いの重要さは全ての世代に当てはまる事なのだと気付かされました。(兼)

NPOへのお便り募集!



「コミュニティルネ」へのお便りを募集します。ご感想・ご意見などをTEL・FAX又はメールアドレスにお寄せ下さい。